



問合せ先  
第八管区海上保安本部海洋情報部  
監理課長 三原 修一  
TEL 0773-75-7373 (直通)  
TEL 0773-76-4100 (内線 2511)

海上保安庁創設60周年記念



第八管区海上保安本部  
平成20年9月18日

## 海洋情報業務貢献者の表彰について

9月12日の水路記念日にあたり、第八管区海上保安本部では平成16年から実施している由良川河口付近における流況調査において、数多くの流況解析に必要な観測データを当本部に提供するなどして、海洋情報業務に大きな貢献をされた「京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所」に、第八管区海上保安本部長から感謝状を贈呈することとなりました。

流況調査の結果、河口周辺においては沖に向かう複雑で強い流れがあることがわかりましたが、各地の河川においても、特に降雨による河川増水時には、更に強い流れが発生する恐れがあり、マリンレジャーや小型船舶の航行には十分な注意が必要なことから、流況調査の成果は、今後の水難事故等の防止活動に大いに活用していくとともに、海上での工事作業や漁業の際に有効に活用されると期待しています。

贈呈式については、9月24日(水) 午前11時から第八管区海上保安本部長室において実施いたします。

なお、取材を希望されます社は、9月22日(月)までに当部へご連絡ください。

### 【水路記念日】

明治4年(1871年)7月28日(新暦の9月12日になります)に海上保安庁海洋情報部の前身である兵部省海軍部水路局が設置され、海図作成にとりかかったこの日を水路記念日としています。海上保安庁では、この水路記念日にあたり海洋情報業務(海の調査や海洋情報の提供)に貢献した個人・団体の表彰(感謝状の贈呈)を行っています。

### 【由良川河口付近における流況調査】

第八管区海上保安本部では、平成14年と15年に京都府の由良川河口付近で海浜事故が連続発生したことから、海浜事故防止の啓発活動に資する目的で、平成16年より平成20年にかけて同河口付近の複雑な流れを解明するため流況調査を実施しました。

平成19年の調査では、人工衛星を利用した漂流ブイ\*1による漂流実験等を行った結果、漂流ブイが河口付近から最初の1時間で最大距離1,700メートル、24時間で約14キロメートル沖合まで流されました。詳細な解析の結果、由良川河川の影響が1,200メートルまで及んでいることが判りました。

観測結果の詳細については、八管区ホームページにて公表しています。

[http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN8/sokuho/sokuho\\_index.html](http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN8/sokuho/sokuho_index.html)

\*1 漂流ブイ(オーブコムブイ):

オーブコム衛星通信システムを搭載した漂流ブイで、ブイから送信されたGPSIによる位置、年月日、時刻などの情報を通信ネットワークを経由し、電子メールで受信可能なブイ